

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-51C	22-021	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b> Frequent low dose alcohol intake increases gastric cancer risk: the Health Examinees-Gem (HEXA-G) study 頻繁な低用量アルコール摂取は胃がんのリスクを高める : Health Examinees-Gem (HEXA-G)研究より		
<b>執筆者</b> Hwi-Won Lee, Dan Huang, Woo-Kyoung Shin, Katherine de la Torre, Minkyong Song, Aesun Shin, Jong-Koo Lee, Daehee Kang		
<b>掲載誌</b> Cancer Biol Med. 2022 Apr 28;19(8):1224-1234. doi: 10.20892/j.issn.2095-3941.2021.0642.		
キーワード	PMID	
胃癌、アルコール摂取、飲酒行動、前向きコホート	35484712	
<b>要 旨</b> <p> <b>目的:</b> 疫学研究の結果は、アルコールが胃がん(GC)のリスクを高めることを示しているが、ほとんどの研究は大量のアルコール摂取に焦点を当てており、他の要因は十分に研究されていない。飲酒行動に関連する GC リスクの解明のため、アルコール摂取の頻度と量の GC リスクへの影響に関する包括的な調査を実施した。           </p> <p> <b>方法:</b> Health Examinees-Gem (HEXA-G)研究は、地域ベースの大規模な前向きコホート研究で、2004年から2013年の間に40歳から69歳の韓国人成人が登録されている。GC ケースは2017年12月31日までの韓国中央がん登録データを通じて特定した。自己申告のアンケートにより、アルコール摂取状況(期間、頻度、量、アルコール飲料の種類)を調査した。アルコール摂取の頻度と量を組み合わせて、「まれに軽く」、「頻繁に軽く」、「まれに多め」、「頻繁に多め」の4つの飲酒パターンに従って GC リスクを調べた。Cox 比例ハザードモデルを使用して、調整済みハザード比(HR)と95%信頼区間(CI)を推定し、アルコール摂取量と GC 発生率の関係を調査した。           </p> <p> <b>結果:</b> 合計128,218人の対象者が分析に含まれた。平均8.6年の追跡調査期間中に、男性462人、女性385人がGCと診断された。男性では、現在飲酒者は、現在非飲酒者よりもGCのリスクが31%高いことが示された(HR 1.31, 95%CI 1.03-1.66)が、女性では有意な関連性は示されなかった。男性では、GC リスクはより高い飲酒頻度(傾向検定: <math>P=0.02</math>)およびグラム単位のエタノール摂取量(傾向検定: <math>P=0.03</math>)と関連していた。男性では、「頻繁に軽い」(<math>\geq 5</math>回/週、<math>&lt;</math>エタノール40g/日)飲酒パターンは、「まれに軽い」(<math>&lt; 5</math>回/週、<math>&lt;</math>エタノール40g/日)よりもGCのリスクが46%高かった(HR 1.46, 95%CI 1.02-2.07)。           </p> <p> <b>結論:</b> アルコールの頻繁な摂取は、1回の飲酒あたりの量が少なくても、GC リスクを増加させる可能性を示唆した。アルコールとGCの関係を詳細に評価するには、さらなる研究が必要である。           </p>		